

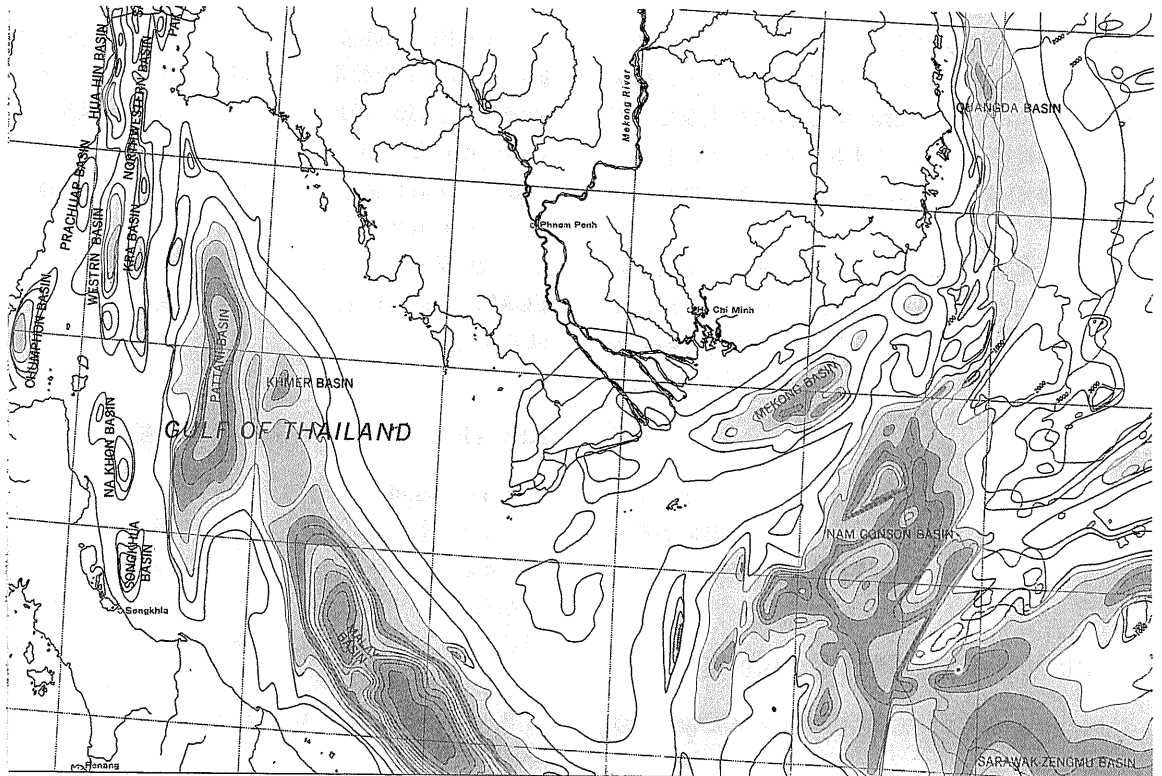
特集

CCOP—国際化を考える

本特集は来る9月27日からつくば市内で開催される第32回 CCOP 年次総会を前にして、多くの読者にとって日頃知る機会の少ない国際機関である CCOP (Coordinating Committee for Coastal & Offshore Geoscience Programmes in East and Southeast Asia, 東・東南アジア沿岸・沿海地球科学計画調整委員会*日本語名称は正式のものではない)に様々な角度からスポットライトをあてて紹介するとともに、地質調査所の国際化を考えるよすがとしようと思図したものです。

1966年に CCOP が創立された時の多国間協力の高邁な思想には私達も学ぶべきものが多くあり、それに直接関与された元所員の嶋崎吉彦氏(現 CCOP 名誉顧問)によるレビューではその歴史的な経緯が

詳しく語られています。現在の CCOP ネットワークの様々な活動については最初に富樫国際協力室長によって組織構成や公的役割についての総論がのべられています。次に1994年秋にマレーシアで開催された CCOP 年次総会の模様を長谷紘和次長らに述べていただきました。最後に現在進行中のプログラムの1つである「東アジア広域地質図のデジタル編集」のジェネラル・コンパイラーである国際協力室の脇田浩二氏の目からみたユニークなプロジェクト紹介がなされています。地質関連分野の「政府間地域組織」という世界的にもユニークな存在である CCOP の立体像がこの特集によっていくらかでも明らかになり、皆様の関心が高められれば幸いです。(国際協力室 松林 修)



Total Sedimentary Isopach Map, Offshore East Asia (CCOP, 1991).